

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・現代社会	講座名	現代社会	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	『現代社会』東京書籍				
副教材等	『ライブ!2022 公共、現代社会を考える』帝国書院				

学習目標	現代社会の基本的知識の習得をもとに、さらに広い視野に立った学習を進め、現代の諸問題に対する関心及び思考力・判断力・表現力を中心とする課題解決能力を高める。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	現代社会の特質と課題 青年期と自己形成	12h	地球環境問題 資源・エネルギー問題 科学技術の発達と生命倫理の問題 高度情報社会 青年期の意義と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会を形成していくために、現代社会における諸課題をとらえ考察するための考え方の枠組みを身に付ける。 ・社会と関わりあう中でアイデンティティを確立し、よりよく生きることを追求する大切さを自覚する。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	よく生きること を求めて 日本国憲法の基本 原理、現代政治 の特質と課題	12h	哲学と人間、宗教と人間 近代科学の考え方 人間の尊厳 日本の伝統思想と外来思想の 受容 日本国憲法の基本 原理 選挙制度	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想を基に、人間の存在や価値について多面的に考察し、今日的な課題について探究する姿勢を身に付ける。 ・民主政治の基本的な考え方、日本国憲法の基本原理について理解し、選挙制度のしくみについて理解するとともに、政治参加の重要性を踏まえて主権者としての在り方生き方を考察する。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	経済のしくみ 変化する 日本経済 豊かな生活の 実現 国際政治の しくみと動向 国際経済の しくみと動向	22h	経済社会の変容、現代の企業 市場経済・金融のしくみ 中央銀行・政府の役割と財政 戦後復興と高度経済成長 産業構造の転換と経済環境 の変化 環境保全と循環型社会 国際社会の特質、国際紛争、 国際連合、軍縮への取組 貿易と国際分業、外国為替 戦後国際経済の変化 対立と協調、グローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ・経済発展、産業構造の変化、市場経済や中央銀行のしくみと役割について理解し、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察する。 ・健全な経済発展を図り、持続可能な社会を築くことが、地球規模の環境保全にとって必要であることを理解する。 ・国際社会において国際間の秩序を作り出す国際法の意義と役割について理解する。 ・経済活動が世界的な規模で自由に行われること相互依存関係が深まっていることを理解する。 ・国際社会の諸課題について考察し、国際社会における日本の役割について考える。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	国際社会と 人類の課題 共に生きる社会 をめざして 日本国憲法 日本の政治機構	14h	世界経済、国際的な格差是正 地球規模の課題、日本の役割 持続可能な社会の形成 平和主義と安全保障 政党政治、地方自治など	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会が直面する様々な課題を解決するためには、国家及び国際的な機構や組織、NGO、企業などが互いに連携しながら協力していくことが大切であることを理解し、国際平和、国際協調について考える。 ・平和主義や日本の政治機構などについて理解し現代の政治の諸課題について考察する。
12月 ～ 3月		現代政治の 特質と課題	18h	日本の役割 持続可能な社会の形成 大学入試問題への対策 論述問題対策、小論文対策	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治の諸課題について考察し、政治参加の重要性を踏まえて、主権者としての在り方生き方を考察する。
評価の観点・方法		現代社会全般の基本的知識と現代社会における諸問題についての思考力、判断力、表現力を高めることができたかを評価の観点とする。評価は定期考査を中心に、授業中の課題や、演習問題への取り組み等を考慮し総合的に行う。			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・倫理	講座名	倫理（必選）	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	『高校倫理 新訂版』実教出版				
副教材等	『最新図説 倫理』浜島書店				

学習目標	世界の倫理思想史上の重要事項および青年期における人間形成の意義を理解し、人間としてのあり方、生き方についての思索を深める。現代社会の諸課題を理解し、社会の一員として自己がどのように関わり、その解決にどう貢献できるか自覚と思索を深め、よき公民としての資質を養う。また、大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	現代に生きる 自己の課題 青年期の課題 と自己形成 人生における 哲学	12h	人間の特質 青年期とは 適応と個性 現代青年の特色と課題 古代ギリシャの思想 自然哲学、ソフィスト、 ソクラテス、プラトン、 アリストテレス	<ul style="list-style-type: none"> 青年期の意義とその課題について関心を高める 現代の倫理的課題について理解を深め、自らの人生観、世界観、価値観の形成に活かす知識を身に付ける。 ギリシャの先哲の思想や中国思想を基に、人間の存在や価値、人間関係や社会生活について多面的・多角的に考える。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	人生における 宗教、人生の知恵 現代社会と倫理	12h	キリスト教、イスラーム、 仏教、中国思想 ルネサンス、宗教改革 モラリスト	<ul style="list-style-type: none"> 宗教思想への理解を深め、今日的な課題について探究する姿勢を身に付ける。 先哲の人間についての考えへの理解を深め、人間の存在や生命の深遠さについて考える。 先哲の思想を手掛かりに現代の科学技術の根底にある基本的な見方考え方への理解を深める。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	現代社会と倫理 国際社会に生きる 日本人の自覚	22h	近代科学の誕生、経験論、 合理論、社会契約説 ドイツ観念論、功利主義 社会主義、実存主義、 ヒューマニズム 日本の風土と伝統 仏教の伝来 儒教の日本化、国学 近世庶民の思想 西洋近代思想の受容	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術が人間に及ぼした諸問題について主体的に考えられるよう、倫理的な見方や考え方を身に付ける。 先哲の考え方を複数取り上げることで、よりよく生きることや生きがいについて考える。 日本人の心情やものの見方・考え方と風土との深い関わりをとらえ、これらが、その後の日本思想の底流となっていることを理解する。 日本の仏教、儒教について、どのように受け入れ、展開していったのかを理解し、日本人の思想形成に及ぼした影響について考える。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	国際社会に生きる 日本人の自覚 現代における 理性の問題 現代の諸課題と 倫理	14h	近代的自我の成立 近代日本哲学の成立 生命倫理、環境倫理、 現代の家族、地域社会、情 報社会、異文化理解 人類の平和と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 近代日本の哲学を理解し、現代社会を生きる際の自己形成の一つの視点としてこれを生かし、国際社会を主体的に生きる姿勢を養う。 様々な倫理的課題について、他者との関わりで生きるという視点を忘れずに考え、人間としての在り方生き方についての自覚を深める。 大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
12月 ～ 3月		大学入試問題 演習	18h	大学入学共通テストに 向けた問題演習 大学入試に向けた 実践問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
評価の観点・方法		現代における倫理的課題と自己形成について関心を高め、課題についての思考力、判断力、表現力を高められたかを評価の観点とする。評価は、定期考査を中心に、授業中の課題、演習問題への取り組み等を考慮して総合的に行う。			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・倫理	講座名	倫理（自選）	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	『高校倫理 新訂版』実教出版				
副教材等	『最新図説 倫理』浜島書店				

学習目標	世界の倫理思想史上の重要事項および青年期における人間形成の意義を理解し、人間としてのあり方、生き方についての思索を深める。現代社会の諸課題を理解し、社会の一員として自己がどのように関わり、その解決にどう貢献できるか自覚と思索を深め、よき公民としての資質を養う。また、大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	現代に生きる 自己の課題 青年期の課題 と自己形成 人生における 哲学	12h	人間の特質 青年期とは 適応と個性 現代青年の特色と課題 古代ギリシャの思想 自然哲学、ソフィスト、 ソクラテス、プラトン、 アリストテレス	<ul style="list-style-type: none"> 青年期の意義とその課題について関心を高める 現代の倫理的課題について理解を深め、自らの人生観、世界観、価値観の形成に活かす知識を身に付ける。 ギリシャの先哲の思想や中国思想を基に、人間の存在や価値、人間関係や社会生活について多面的・多角的に考える。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	人生における 宗教、人生の知恵 現代社会と倫理	12h	キリスト教、イスラーム、 仏教、中国思想 ルネサンス、宗教改革 モラリスト	<ul style="list-style-type: none"> 宗教思想への理解を深め、今日的な課題について探究する姿勢を身に付ける。 先哲の人間についての考えへの理解を深め、人間の存在や生命の深遠さについて考える。 先哲の思想を手掛かりに現代の科学技術の根底にある基本的な見方考え方への理解を深める。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	現代社会と倫理 国際社会に生きる 日本人の自覚	22h	近代科学の誕生、経験論、 合理論、社会契約説 ドイツ観念論、功利主義 社会主義、実存主義、 ヒューマニズム 日本の風土と伝統 仏教の伝来 儒教の日本化、国学 近世庶民の思想 西洋近代思想の受容	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術が人間に及ぼした諸問題について主体的に考えられるよう、倫理的な見方や考え方を身に付ける。 先哲の考え方を複数取り上げることで、よりよく生きることや生きがいについて考える。 日本人の心情やものの見方・考え方と風土との深い関わりをとらえ、これらが、その後の日本思想の底流となっていることを理解する。 日本の仏教、儒教について、どのように受け入れ、展開していったのかを理解し、日本人の思想形成に及ぼした影響について考える。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	国際社会に生きる 日本人の自覚 現代における 理性の問題 現代の諸課題と 倫理	14h	近代的自我の成立 近代日本哲学の成立 生命倫理、環境倫理、 現代の家族、地域社会、情 報社会、異文化理解 人類の平和と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 近代日本の哲学を理解し、現代社会を生きる際の自己形成の一つの視点としてこれを生かし、国際社会を主体的に生きる姿勢を養う。 様々な倫理的課題について、他者との関わりで生きるという視点を忘れずに考え、人間としての在り方生き方についての自覚を深める。 大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
12月 ～ 3月		大学入試問題 演習	18h	大学入学共通テストに 向けた問題演習 大学入試に向けた 実践問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試に対応できる実践力を身に付ける。
評価の観点・方法		現代における倫理的課題と自己形成について関心を高め、課題についての思考力、判断力、表現力を高められたかを評価の観点とする。評価は、定期考査を中心に、授業中の課題、演習問題への取り組み等を考慮して総合的に行う。			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・現代社会	講座名	現代社会演習	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	『現代社会』東京書籍				
副教材等	『ライブ！2022 公共、現代社会を考える』帝国書院				

学習目標	現代社会の基本的知識の習得をもとに、さらに広い視野に立った学習をすすめ、大学受験への対応、特に大学入学共通テストに対応できる思考力、問題解答力を養う。そして、将来大学で学ぶ際に基礎となる社会科学系の知識を定着させ、課題解決能力を高める
------	---

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	現代社会の特質と課題 青年期の課題	12h	現代世界と日本 大衆社会、高度情報社会、グローバル化 少子高齢化、科学技術の発達と生命の問題 青年期の意義と課題 現代に生きる思想、ギリシア思想等源流思想	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の習得を第一としながら、幅広い知識習得をめざさせる ・単元ごとに共通テスト形式の問題（10問ほど）を実施し、定着度を確かめる
5月 ～ 7月	第二回定期考査	民主社会の倫理 日本の文化 経済のしくみ	12h	民主社会に生きる 個人と社会の倫理 日本の伝統的文化と心情 市場経済、現代の企業	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の習得第一としながら、幅広い知識習得をめざさせる ・単元ごとに共通テスト形式の問題（10問ほど）を実施し、定着度を確かめる
7月 ～ 10月	第三回定期考査	日本経済の現状と課題 国際的な諸問題 現代に生きる思想 日本国憲法の原則	22h	財政、金融政策 消費者問題、環境問題、経済格差 安全保障、軍縮問題 貿易摩擦、南北問題 激動期を人間らしく生きる（ヒューマニズム） 人権保障と統治機構 平和主義と安全保障体制	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の習得第一としながら、幅広い知識習得をめざさせる ・単元ごとに共通テスト形式の問題（10問ほど）を実施し、定着度を確かめる・国際問題に関する知識の少なさを補充する
10月 ～ 12月	第四回定期考査	日本の政治のしくみ 現代の諸課題	14h	政党政治、選挙制度 戦後の55年体制～連立政権の時代 全範囲（現代の課題、政治、経済、国際問題、青年期、倫理）について問題演習、解説など	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習と解説を中心にして進める ・共通テスト対策を中心とする
12月 ～ 3月		現代の諸課題	18h	全範囲（現代の課題、政治、経済、国際問題、青年期、倫理）について問題演習、解説など 論述問題対策、小論文対策の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習と解説を中心にして進める ・実力の確認に適切な問題を選ぶ ・記述、論述対策小論文対策をする
評価の観点・方法		大学受験への対応、特に大学入学共通テストに対応できる思考力、問題解答力が身に付いたかを評価の観点とする。評価は、考査を中心に、日常の小テスト、演習問題への取り組み等を考慮し総合的に行う			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・政治・経済	講座名	政治・経済	対象年次	3
教科担任				単位数	3
教科書	『政治・経済』 東京書籍				
副教材等	『政治・経済資料』東京法令出版、『政治・経済用語集』山川出版社 『大学入学共通テスト 政治・経済重要問題集』実教出版 『共通テスト問題研究』教学社				

学習目標	政治、経済、国際問題の基礎を学習し、大学受験に対応できる力を育成するとともに、有為な社会の形成者としての資質を伸ばしてゆく。また、大学での学問研究の根本となる社会科学系の知識や学説などを身につけさせ、問題解決能力を高めてゆく。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	1、国際経済	21h	貿易と国際収支 国際経済のしくみ 国際通貨体制 南北問題 南南問題 地球環境とエネルギー	・基本事項の習得を第一としつつ、歴史の分野など幅広い知識習得をめざさせる
5月 ～ 7月	第二回定期考査	2、国際政治	21h	冷戦の終結と新秩序の模索市場経済のしくみ 需要と供給、物価の動向、核兵器の廃絶と軍縮 地域紛争と人種民族問題 国際法、勢力均衡と集団安全保障、 国連とPKO、戦後国際政治の展開	・生徒各自が自らの問題意識に基づき学習できるように、参考文献や映像資料の提示する ・単元ごとに確認テストを実施し、理解度を確かめ定着度を高める
7月 ～ 10月	第三回定期考査	3、現代の経済 4、現代経済のしくみ 5、日本経済と福祉の向上	33h	人間と経済活動 資本主義経済と私有財産制 ケインズ主義とマネタリズム 経済活動の主体、現代の企業 企業、財政のしくみと租税、金融政策、 後日本経済のあゆみ、中小企業、農業と食料 消費者・労働問題 少子高齢社会と社会保障	・センター試験対策として、まず前年の問題について1つ1つ取り組む ・数理的思考を使って経済学の基礎にふれる ・戦後日本の歩み、ことに高度経済成長についてしっかり学習する
10月 ～ 12月	第四回定期考査	6、現代の政治 7、日本国憲法と基本的人権	21h	民主政治のあゆみ、法の支配、社会契約説、 権力分立、諸国の政治制度、明治憲法の特徴 日本国憲法の制定、最高法規性、 国会、内閣と行政機構、裁判所のしくみ 地方自治のしくみ、党政治、選挙制度の問題点 世論とマスメディア	・自らが社会の形成者となることを意識させる ・問題演習と解説を中心にして進める ・今日の国際問題の焦点を意識させる
12月 ～ 3月		3、日本の政治機構 4、政治参加と民主政治の課題の政治 現代の経済 全範囲の演習	21h	基本的人権の保障、平和主義、日米安保体制 国際経済における日本 全範囲（政治と法、経済、国際問題など） について問題演習、復習解説など 論述問題対策、小論文対策の問題	・より高度な問題に取り組むことで考える力を伸ばす ・記述、論述、小論文など書いて答える問題に取り組む
評価の観点・方法	この授業では、政治・経済全般の基本的知識の習得と活用力の育成をめざし、大学受験に対応できるようにする。評価は主に考査によるが、日常の小テストや演習問題への取り組み姿勢、さらに読書に対する姿勢等を考慮し総合的に行う。				

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・政治・経済演習	講座名	政治・経済演習	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	『政治・経済』 東京書籍				
副教材等	『政治・経済資料』東京法令出版、『政治・経済用語集』山川出版社 『大学入学共通テスト 政治・経済重要問題集』実教出版、『共通テスト問題研究』教学社				

学習目標	政治・経済の基本的知識をもとに思考力読解力を高め、大学受験に対応できる真の実力を養成する。入試問題演習に積極的に取り組み、特にセンター試験の問題と難関私立大学の問題に対する学習を深める。そして今後の大いなる成長を期し、社会科学系学問の基礎力を定着させ、社会および自己に関わる問題に取り組んでゆく能力を養う
------	--

月	期間	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
4月	第一 回定期 考査	政治分野 民主政治の基本 原理と日本国憲法	1 2 h	民主政治の本質・原理、基本的人権の変遷 法の支配、権力分立と議会政治 議院内閣制と大統領制 日本国憲法の基本三原則と最高法規性 新旧憲法の比較、国民主権主義 基本的人権と公共の福祉 平和主義と安全保障、日本の政治制度	・理解度確認のテストと 入試対策実践力のテ ストとを使いわける
5月				国会、内閣、裁判所、地方自治 政党・圧力団体、選挙制度、行政改革 民主政治（政治的無関心、世論、マスコミ） 日本政治史 経済主体、市場経済と価格機構、企業形態 通貨と金融、国民所得と成長 ・明治大、成蹊大、国士舘大の問題	・外部模試に積極的に挑 戦させ、その問題解説 や要点整理をして、そ の後に生かす ・受講生徒が相互に刺激 しあい、お互いを伸ば す関係を構築する
5月	第二 回定期 考査	政治分野 民主政治の諸問 題 経済分野 国民経済の構造 と理論	1 2 h	国際社会と国際法 勢力均衡と集団安全保障 国際連盟国際連合 東西冷戦とポスト冷戦 戦後日本の外交 ・早稲田大、青山学院大、立命館大の問題	・夏期の学習成果をふま え、生徒各自の得意不 得意を見つけ出し、 特に弱点補強に留意 する。 ・択一型と記述を要する 問題の双方に取り組む
7月				貿易、国際収支と外国為替、国際経済機関 国際通貨問題、地域的経済統合 物価問題、消費者、公害と環境保全、都市問題 資源エネルギー、産業構造の変化 中小企業、食糧・農業 地域紛争・人種民族、核兵器・軍縮、労働関係 社会保障、情報化社会 ・共通テスト試験問題、一橋大、中央大の問題	・難関大学の難問にチャ レンジする ・全範囲に対し総復習を して実力を向上させ る
7月	第三 回定期 考査	国際政治 現代の国際政治	2 2 h	政治、経済、国際相互にからんだ問題 （特に国際問題） 論述問題、小論文の問題の対策	・最も適切な時期と時間 設定を考慮する ・最後の追い込みにか ける強い気持ちを持た せる
10月				全範囲	1 8 h
10月	第四 回定期 考査	国際経済 現代の社会の諸課 題 全範囲	1 4 h		
12月					
12月		全範囲	1 8 h		
3月					
評価の観点 ・方法		授業内で実施する諸テストと問題に対する取り組みをもとに総合的に判断する。また、どれだけ伸びたかを測り、努力度を評価に組み入れられるようにする。			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	公民・政治・経済	講座名	経済演習	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	『政治・経済』 東京書籍				
副教材等	『政治・経済資料』東京法令出版、『政治・経済用語集』山川出版社 『大学入学共通テスト 政治・経済重要問題集』実教出版、『共通テスト問題研究』教学社				

学習目標	政治、経済、国際問題の基礎を学習し、大学受験に対応できる力を育成するとともに、有為な社会の形成者としての資質を伸ばしてゆく。大学での学問研究の根本となる社会科学系の知識や学説などを身につけさせ、問題解決能力を高めてゆく。
------	--

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	1、国際経済動向	1 2 h	貿易と国際収支、国際経済のしくみ、南北問題	・今日の国際問題の焦点を意識させる
5月 ～ 7月	第二回定期考査	2、国際経済の課題と国際協力 3、経済活動の意義	1 2 h	地球環境とエネルギー、国際経済における日本 人間と経済活動、経世済民 資本主義経済と私有財産制 ケインズ主義とマネタリズム 経済活動の主体	・今日の国際問題の焦点を意識させる ・数理的思考を使って経済学の基礎にふれる ・自らが社会の形成となることを意識させる
7月 ～ 10月	第三回定期考査	4、現代経済のしくみ	2 2 h	現代の企業、企業の社会的責任 市場経済のしくみ 需要と供給、物価の動向国民所得と経済成長 財政のしくみと租税金融のしくみとはたらき 金融政策	・生徒各自が自らの問題意識に基づき深く学習できるように、参考文献や映像資料の提示を欠かさない
10月 ～ 12月	第四回定期考査	5、日本経済と福祉の向上	1 4 h	戦後日本経済のあゆみ、中小企業 農業と食料、公害と環境保全 消費者問題、労働問題 少子高齢社会と社会保障	・戦後日本の歩み、ことに高度経済成長についてしっかり学習する
12月 ～ 3月		全範囲の演習	1 8 h	全範囲（政治と法、経済、国際問題など）について問題演習、復習解説など論述問題対策、小論文対策の問題	・問題演習と解説を中心に進める ・共通テスト試験対策として、まず前年の問題について1つ1つ取り組む

評価の観点・方法	この授業では、経済全般の基本的知識の習得と活用力の育成をめざし、大学受験に対応できるようにする。評価は主に考査によるが、日常の小テストや演習問題への取り組み姿勢等を考慮し総合的に行う。
----------	--